

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	環境局総務政策部環境学習課
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 指定概要

指定管理施設	名 称	タカミヤ環境ミュージアム (北九州市環境ミュージアム)	施設類型	目的・機能
			I	⑤
	所 在 地	北九州市八幡東区東田二丁目2番6号		
	設置目的	公害の克服の過程、環境の保全、環境への負荷の低減に資する技術等に関する資料を収集し、保管し、及び展示するとともに、環境の保全に関する学習及び交流の場を提供、市民の環境保全のための活動を促進し、これを持って環境の保全に資するために設置する。		
利用料金制の状況		非利用料金制 ・ <u>一部利用料金制</u> ・ 完全利用料金制		
指定管理者	名 称	タカミヤ・里山・エックス共同事業体		
	所 在 地	北九州市八幡東区東田二丁目5番7号		
指定管理業務の内容		○環境学習拠点として ・公害の克服の過程、環境の保全、環境への負荷の低減に資する技術等に関する資料を収集し、保管し、及び展示する事業 ・環境の保全に関する学習及び交流の場を提供する事業 ・環境の保全に関する啓発事業等の実施 ○施設(ミュージアム、エコハウス、地球の道)の維持管理に関すること ○環境学習サポーターの活動支援・育成 など		
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日		

【参考：評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2 評価結果

評価項目	指定管理者 の自己評価	市（所管局） の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との 相違理由 など	配点	得点 （評価結果）
	(評価レベル：0～5)			(100点満点)	
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				50	43
(1) 施設の設置目的 の達成	4	4	学習プログラムの新たな開発や、ファミリー層向け新規講座開設、夏休み期間中の長期継続イベントの開催など、来館者増に努め、年間利用者数は、要求水準及び目標値（80,000人）を上回った。教育委員会主催の「SDGs 環境アクティブラーニング」、JICA 研修や海外視察など、各団体のニーズに応じた受け入れに尽力している。また、新たにオンラインを活用した海外・関東圏等への出張ミュージアムの実施など、利用者の開拓やニーズの掘り起こしを行っている点は高く評価できる。	35	28
(2) 利用者の満足度	5	5	団体、一般利用者それぞれにアンケートを実施し、「大変良い」・「良い」との評価が共に95%以上で高い満足度を得ている。来館者の個別意見、本施設の改善要望等にも迅速に対応し、改善対応状況をホームページに掲載するなど利用者目線の施設運営に努めている。また、リピーターのニーズも踏まえ、新規プログラムやイベント開発に取り組むなど、質の向上に努めている点は高く評価できる。	15	15
2 効率性の向上等に関する取組み				30	18

(1) 経費の低減等	3	3	施設の日常点検と軽微な不具合の改修等は、職員自らが迅速に行うとともに、保守点検・清掃の再委託先について、業者・作業内容の見直しを行い、経費低減に努めた。 さらに、環境ミュージアムだよりの企画・配送作業等についても、スタッフ自らが行うことで、経費低減に努めている。	20	12
(2) 収入の増加	3	3	利用料金収入は計画に達していないものの、自主事業収入はショップ販売の品目追加や有料事業の拡大により増加しており、自主事業収益還元は前年度比20%増、計画比15%増となっている。(自主事業収益は全額指定管理業務に還元している)	10	6
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				20	14
(1) 施設の管理運営 (指定管理業務) の実施状況	4	4	職位や専門性に応じた業務分担と、その職性に応じたバックアップ業務を整理し、効率的な人員配置がなされている。また、ガイドや講座実施においては、特にOJTを徹底し、職員のレベルアップに努めている。 また、環境関連機関、東田地区施設、企業等と連携し、各種イベント・企画展を行うとともに、国際研修の受け入れ体制を整備するなど、積極的な連携・協働に努めたことは評価できる	10	8
(2) 平等利用、安全 対策、危機管理体制 など	3	3	車椅子やベビーカーの常設、授乳場所の提供、英語対応できる職員の設置など、様々な利用者への配慮がなされている。 毎月、安全衛生委員会を開催し、施設、来館者、職員の安全管理につき組織内での情報共有が適切になされている。また、元看護師長経験者を採用することで、非常時対応や、より充実したAED・救命講習を行うなど、安全安心な施設運営に努めている。	10	6
【参考：総合評価ランク】 A：優れていると認められる (80点以上) B：やや優れていると認められる (70点以上80点未満) C：適正であると認められる (60点以上70点未満) D：努力が必要であると認められる (50点以上60点未満) E：かなりの努力が必要であると認められる (50点未満)				合計	100
				総合評価ランク (A～E)	75 B

【総合評価】 ※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総括的に記入してください。

北九州市環境ミュージアムは市民環境力向上のための学習施設、環境活動、環境情報の総合拠点と位置付けられており、指定管理者には、通常の施設管理に加え、来館者への展示解説や体験学習の実施など、幅広い業務と役割が求められている。

オリジナルプログラムの開発や、ニーズに応じた展示解説やイベント・講座をオンラインも含め多数開催する等、幅広い世代や属性の利用者に環境学習の機会を提供している。こうした取り組み等を積極的に情報発信（SNS, HP 等）したことから、利用者数は目標値の 80,000 人を達成している。

団体、一般利用者を対象とした設備状況・展示・ボランティア・スタッフに関するアンケート結果は、団体ではほぼ 100%、一般利用者も 95%を超える高い満足度を得ている。

八幡東田地区という立地を活かした周辺施設との連携、他の環境関連施設と連携したイベントや企画展の開催、指定管理者の母体組織が有するネットワークを活かした斬新な企画の実施は、施設の価値創造の観点からも高く評価できる。

また、出張講座等の自主事業にも積極的に取り組み、物販収益とともに、自主事業収益を全て指定管理業務に還元するなど、公的負担の縮減にも貢献している。

以上のことから、本市の環境学習・活動・交流の総合拠点という施設の設置目的を踏まえ、適正に施設の管理運営を行っているものと評価できる。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

適正に評価されている。

来館者の意見を反映させながら SNS 発信を強化し、市民への周知と魅力向上に主体的に努めている。今後も、市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

<参考> 現指定期間中の評価結果

区 分	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
評価結果 (合計得点)	75	—	—	—	—

平 均
75

※高評価のインセンティブ（更新制）について

- ▶ 1～3年目の平均点が75点以上の指定管理者（指定期間5年間の事業者に限る）について、1期に限り指定の更新（+5年間）を認めるもの。

※低評価のペナルティ（次期選定時の減点）について

- ▶ 最終年度を除く全指定期間中の平均点が59点以下の指定管理者について、同指定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から10点または15点をマイナス）するもの。

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	タカミヤ環境ミュージアム (北九州市環境ミュージアム)
	所 在 地	北九州市八幡東区東田二丁目2番6号
指定管理者 (自己評価者)	名 称	タカミヤ・里山・エックス共同事業体
	所 在 地	北九州市八幡東区東田二丁目5番7号
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 (□にレ点)	実施の有無 (○・×)	備 考 (補足説明等)
新規解説プログラム開発	☒	○	
最先端映像機器による東田エコツアー	☒	○	
企業とカーボンニュートラル企画展	☒	○	
XR・メタバース時代の体験学習	☒	○	
春夏冬休み及びGW期間中の 毎日のイベント開催、休日開館	☒	○	
土日祝日に親子向けの工作教室、 実験講座を開催	☒	○	
ちよいエコホリデーの開催	☒	○	
ミュージアムの魅力を詳細に 伝える広報媒体の開発	☒	○	
ミュージアムファンクラブの 設置・運営	☒	○	
3館連携プログラムの実施	☒	○	

JICA等国際機関との連携プログラム	☒	○	
FAISとの連携プロジェクト	☒	○	
母体団体との連携事業(シェア祭り、水辺の教室、里山トラスト等)	☒	○	
自主事業	応募時提案 (□にレ点)	実施の有無 (○・×)	備考 (補足説明等)
文化イベントと環境イベントを かけ合わせたイベント「+E」 を展開	☒	○	
出張ミュージアム	☒	○	
エコハウス有効活用の検討	☒	○	
ニーズにあったエコショップ の展開	☒	○	
企業の環境レポートライブラ リーを設置	☒	×	全館の展示見直し検討の中 でより効果的なやり方を考 えることとしている。
自動販売機を1台正面玄関に 設置	☒	○	

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント		自己評価
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み		
(1) 施設の設置目的の達成		評価レベル (0～5)
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。		4
[評価の理由、要因・原因分析]		
① 目標の達成 ・ 環境学習を、北九州市の歴史、文化、街づくりなど多角的な視点からアプローチし、知るだけでなく、自分事として考え行動につながるプログラムの実施に努めた。その結果、SDGsをはじめとする今日の環境に関する諸問題が本格的に学習できる施設として、市内はもとより、国内外、大人子ども、地域・職域を問わない幅広い層に利用していただくことができた。 ・ 令和7年度の利用者数は、令和6年度と比べほぼ同数の84,063人で目標値の105%を達成した。 ・ きめ細かな事前ヒアリングを通じて、それぞれの学習ニーズに沿ったオーダーメイド方式のプログラムを作成・実施することにより、主なターゲットである市内小学生の団体利用が増加した。なお、国際関係の状況変化等から、海外からの団体件数はわずかに減少した。 ・ 有識者や各界の代表者から構成する運営委員会を設置し、年2回運営状況の報告を行うとともに、運営状況への幅広い意見をいただいた。その結果は、一部改善の余地はあるものの、概ね高評価をいただいている。		

団体利用	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
団体件数	360	335	—	—	—	—
団体人数	10,888	10,139	—	—	—	—
市内小学 校件数	61	75	—	—	—	—
同人数	2,698	3,744	—	—	—	—
うちA L 件数	26	29	—	—	—	—
同人数	1,220	1,552	—	—	—	—
海外件数	76	51	—	—	—	—
同人数	1,232	971	—	—	—	—

② 利用者増に向けた取り組み

- ・利用者ニーズに沿った新規オリジナルツアープログラムの開発（8 本）や、地球環境戦略研究機構（IGES）と共同企画したスタディツアー等 16 の関係機関との連携プログラムの実施、親子向けの実験講座の新設（5 プログラム）、新規イベントの開発（23 本）など、新たな展開を積極的に推進した。
- ・来館予定の各団体から来館目的やねらいを詳細にヒアリングし、それぞれの目的に沿ってガイドや講義を設計し、実施した。
- ・直接の利用者にはカウントされないが、出張ミュージアムを積極的に展開し、24 回、1,761 人の参加を得た。

プログラム 個別対応	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
回数	60	63	—	—	—	—
受講者数	1,788	1,995	—	—	—	—

- ・「SDGs・環境アクティブラーニング」（29 件）、JICA 研修等国际機関の訪日研修（12 件）、北九州市社会科児童作品展（9 月）、東田ミュージアムパーク子どもスクール講座の開催（4 回）、古紙リサイクルバスツアーの受け入れなど、北九州市の環境学習の拠点という立場から関係機関との連携事業を精力的に実施した。
- ・学校の夏休み等長期休みや土日祝日に毎日イベントを開催するなど、ファミリー層の開拓に努め、イベント回数は 162 回に及んだ。
- ・毎年 6 月の環境月間に実施する「未来ホタルデー」は、新たな参加機関の開拓や広報に努め、前年を大きく上回る参加者を得た。
- ・環境学習サポーターによる従来の「ちょいエコホリデー」を毎月開催の「たのしい工作の日」と刷新し定期的開催とした。その結果、当イベントの周知が進み、未就学児が簡単な工作をして楽しむ機会が増えるとともに、サポーター活動も活性化するという効果を得ることができた。

未来ホテル デー	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
参加者	5,250	6,722	—	—	—	—

イベント	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
回数	154	162	—	—	—	—
参加者	2,198	3,330	—	—	—	—
たのしい工作の日 回数	3	10				
参加者	361	885				

③ 複数の施設の一括管理による効果

- ・老朽化にともない利用者が減少している本館併設のエコハウスの新たな活用方法の検討を進め、令和8年度から、遊びの教室等の子育て支援機能が加わることとなった。
- ・体験型環境学習事業「地球の道」は、東田第一高炉跡地の改修工事のための閉鎖が継続しているが、地球の道全体を遠望する中で、生命にとっての地球の大切さを解説するなど、可能な限りの活用を図った。
- ・指定管理者の一部が運営管理する「北九州市立ユースステーション」において、食とSDGsに関するパネル展示を行うなど、連携に努めた。

併設施設 利用者	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
エコハウス	1,967	1,270	—	—	—	—

④ 効果的な営業・広報活動

- ・市内小学4年生に配布する「未来ホテル新聞」(年5回発行)を通じて、未来ホテルデー、夏休みイベント等の広報を行い、学校行事以外の小学生の来館につながっている。
- ・環境ミュージアムが歴代伝えてきたこと、今学べることなどを掲載する「環境ミュージアム通信」を創刊し、修学旅行や地域活動団体等の来館促進ツールとして利用している。
- ・インスタグラム(R6年度:146回→R7年度:216回)ほか各種広報媒体の発信の頻度を上げた。
- ・出張ミュージアムで、西日本支店長会、国立インドネシア教育大学等、経済界や海外といった新たな対象を開拓した。
- ・オンラインを活用し、海外や関東圏などに出張ミュージアムの範囲を拡大した。

出張ミュージアム	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
実施件数	23	24	—	—	—	—
受講者数	2,515	1,761	—	—	—	—

オンライン講座	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
実施件数	5	7	—	—	—	—
受講者数	150	377	—	—	—	—

(2) 利用者の満足度

評価レベル
(0～5)

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

5

〔評価の理由、要因・原因分析〕

① 利用者アンケートの実施

・設備、展示、ボランティア、スタッフに関するきめ細かなアンケートを団体、一般利用者それぞれに実施した。その結果、「大変良い」および「良い」の合計は、団体でほぼ100%で、一般でも各項目 95%を超える高い満足度を得ることができた。

② 利用者意見の把握・反映

・団体、一般向けのいずれのアンケートも意見欄を設け個別意見の把握に努め、それを月度ごとに整理し、数字だけではない来館者側の視点からの幅広い意見の把握に努めた。また、日頃からスタッフが利用者から生の意見を聞き、肌感覚としての利用者満足度の把握、アンケートに表れない利用者ニーズの把握に努め、毎日の終礼での認識の共有、必要に応じての改善を図った。

③ 苦情への対応

・アンケート意見による苦情的な事項は団体はゼロであったが、一般入館者から喫煙場所やサポーター間の会話に関して意見が寄せられ、即改善を図った。
・改善・対応状況はホームページの「よくあるご質問」に掲載し公表した。

④ 利用者への情報提供

・「ミュージアムだより」、ホームページに加えて、登録者に対するメールマガジンを毎週金曜に定期発信するようにした。その結果、イベント応募に対する反応が良くなるなど一定の効果を得ている。また、ミュージアムでの連続講座を YouTube で発信し、ミュージアムのコンテンツ周知に尽力した。

⑤ サービスの質を維持・向上させるための取組み

- ・スタッフは日々、利用者ニーズを踏まえ、それに対応する新規プログラム、イベントの開発に取り組み、それを具現化し好評を得ている。
- ・定期的な研修はもとより、毎日の終礼で当日のガイド等のサービスに関する反省会を実施し、ブラッシュアップに努めている。

【団体アンケート】 評価：4⇒大変良い、3⇒良い、2⇒どちらでもない、1⇒良くない
(単位：パーセント)

年 度	回 答 数	項 目	設備状況				展示				ボランティア				スタッフ			
		目 標	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
R6	96	97%	90	10	0	0	91	9	0	0	89	9	2	0	93	6	1	0
R7	73	100%	89	11	0	0	86	14	0	0	83	15	2	0	93	7	0	0
R8	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R9	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R10	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R11	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【一般アンケート】 評価：4⇒大変良い、3⇒良い、2⇒どちらでもない、1⇒良くない
(単位：パーセント)

年 度	回 答 数	項 目	設備状況				展示				ボランティア				スタッフ			
		目 標	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
R6	1730	97%	56	42	2	0	57	41	2	0	61	26	13	0	67	30	3	0
R7	1375	100%	52	45	3	0	52	47	1	0	56	30	13	1	62	36	2	0
R8	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R9	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R10	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R11	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

2 効率性の向上等に関する取組み								
(1) 経費の低減等								評価レベル (0～5)
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。								3
② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。								
③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。								
[評価の理由、要因・原因分析]								
① 経費低減の取組み								
・設備の老朽化が進む中、スタッフによる毎日のきめ細かいチェック、迅速な市への報告・相談、優先順位の策定、維持作業や軽微の不具合はスタッフ対応とする、改修費用の見積もりを厳格に行う等を通じて、老朽化対策費用の低減化を実現している。								
・人員配置は、管理、ガイド等専門業務以外の受付等定常業務は非常勤化（シルバー人材登用）とし、イベント企画、衛生管理、日常の清掃、施設点検等は常勤・非常勤を問わずマルチタスク制の導入により、人件費の最小化を実現している。								
・最近のエネルギー高騰の中、大規模な照明の LED 化、日々の節電対策の徹底を通じて、光熱水費の上昇を低く抑えることができた。また、スタッフ間の情報共有はペーパーレス化の徹底を図っている。								
② 再委託の状況								
・一部の保守点検は委託先の見直しを行い、また、清掃など他の再委託についても、作業内容の見直しを進め委託経費の節減に努めた。								
③ 経費の効果的・効率的な執行								
・ミュージアムだよりの企画・デザイン・配送作業、イベント材料の準備など、手間と経費を要する作業をスタッフ自らが行うことにより、大きな経費の削減につなげている。なお、これらの経費削減の成果は、長年の課題であった会議室じゅうたんのクリーニングなど利用者への安全・衛生に関する改善に活かした。								
(単位：千円)								
【支 出】		R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)	
事業費	計画	5,321	6,943	6,743	7,093	7,193	6,943	
	実績	3,696	6,153	—	—	—	—	
人件費	計画	53,400	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	
	実績	54,738	61,905	—	—	—	—	
施設維持 管理費	計画	13,554	15,710	16,010	15,710	15,710	16,010	
	実績	12,307	14,183	—	—	—	—	
その他管 理運営費	計画	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	
	実績	1,200	1,200	—	—	—	—	

消費税	計画	5,415	6,850	6,850	6,850	6,850	6,850
	実績	5,610	6,331	—	—	—	—
計	計画	78,890	90,703	90,803	90,853	90,953	91,003
	実績	77,551	89,772	—	—	—	—

(単位：千円)

【支 出】		R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)
総事業費	計画	78,890	90,703	90,803	90,853	90,953	91,003
	実績	77,551	89,772	—	—	—	—
うち光熱 水費	計画	6,389	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500
	実績	5,145	5,431	—	—	—	—

- ・令和7年度より概算払いとして執行するようになった修繕費に関しては、施設の老朽化の状況を月1回市と情報共有する場を持ち、その上で効果的・効率的な執行となるよう計画的に実施項目を絞って進めた。

(単位：千円)

【うち修繕費】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)
計画	—	1,478	1,478	1,478	1,478	1,478
実績	127	1,471	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

(2) 収入の増加

評価レベル
(0～5)

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 使用料(利用料金)収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入(例：協賛金など)を獲得できているか。
- ③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。

3

【評価の理由、要因・原因分析】

① 収入増加に向けた取組み

- ・自主事業であるショップの品目追加、有料イベントの拡大等を通じて、自主事業収益還元は計画を超えることができた。
- ・貸室の利用料金収入は、本施設の特徴から、環境保護団体や市内小学校など減免対象が大部分を占めるため、収入的には伸びていない。一方で、貸室の実質の利用件数は11%、利用人数は15%増加している。

(単位：千円)

【収 入】		R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
利用料金 収入	計画	400	250	300	300	350	350
	実績	270	133	—	—	—	—
指定管理 料収入	計画	77,670	90,053	90,053	90,053	90,053	90,053
	実績	76,909	89,173	—	—	—	—
その他 収入	計画	0	0	0	0	0	0
	実績	2	8	—	—	—	—
自主事業 収益還元	計画	820	400	450	500	550	600
	実績	370	458	—	—	—	—
計	計画	78,890	90,703	90,803	90,853	90,953	91,003
	実績	77,551	89,772	—	—	—	—

() 内は内数であり、減免利用件数と人数、減免料金の単位は千円

貸室利用	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
件数	282 (116)	312 (136)	—	—	—	—
人数	8,809 (4,836)	10,160 (6,087)	—	—	—	—
減免料金	1,536	1,597	—	—	—	—

② 利用料金以外の収入獲得

・自主事業での収入獲得を積極的に進め、前年度に比べ 20%の収益還元額の大幅増加を達成した。

・特にショップ販売においては、ていたんグッズの販売開始等環境関連・エコ商品の販売を推進し、前年度の 5 倍の売上 (R6 年度：37 千円→R7 年度：193 千円) を達成した。

③ 収益還元の取組み

・自主事業で獲得した収益は 100%を指定管理業務へ還元した。

<指定管理業務への収益還元の状況>

(単位：千円)

【実績】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
利益額	370	458	—	—	—	—
還元額	370	458	—	—	—	—
還元率	100%	100%	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み		
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況		評価レベル (0～5)
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。		4
② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。		
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。		
[評価の理由、要因・原因分析]		
① 合理的な人員配置		
・管理事務スタッフ、ガイドスタッフ、バックアップスタッフの分業制で、それぞれの担う業務の責任体制や確実かつ適切な運営体制を担保しながら、合理的な人員配置を行っている。また、分業制でありながら、館長がガイドを行う、ガイドスタッフが企画やイベントを担う、バックアップスタッフがそれぞれのキャリアを活かして衛生、施設点検、清掃、イベントを担当するなど、マルチタスク制を敷くことにより、効率的な人員配置を達成している。		
・繁忙期と閑散期それぞれに沿ったシフト体制を講じ、その体制の中で能力向上施策を織り込むなど、工夫を凝らし適切な人員体制確保と業務の平準化を図っている。		
・里山トラスト事業等人手のかかる事業は親元企業が担うことで内容は充実しスタッフの最小限化を図っている。		
② 職員の資質・能力向上を図る取組み		
・専門性が高いことから、ガイド内容、イベント内容、環境問題をめぐる動向等について、ガイドの空いた時間やその日の終会等を通じて日常的に学び合う場を設け、関連知識や技能のブラッシュアップに努めている。また、日々、ガイド内容や準備状況についてのチェックをガイド同士で行いお互いのレベルアップを図っている。		
・定期的に研修会を設け、接遇、火災・事故等における緊急時の実地訓練、個人情報の取り扱い等の情報共有・確認を行っている。		
・研修の一環として大阪万博や他地域の環境学習施設等にスタッフを派遣し、その結果報告をスタッフ全員で議論することを通じて、さらなる発展に向けた課題認識が常に保たれるよう努めた。		
③ 地域や関係団体等との連携・協働		
・ホテル館やエコタウンセンター等市内の環境関連機関と連携してイベントの相互出張を積極的に行うとともに、東田地区内で連携した「東田ミュージアムパーク子どもスクール」に参加し、協力体制を築いている。		
・市内企業に対しては、企業の環境への取組を展示やガイド説明の中で積極的に発信するとともに、企業企画展（パネル展示）を定期的に開催した。また、企業内の従業員研修も積極的に受け入れている。		
・JICA訪日研修の受入れ12件等、市内の国際機関の研修プログラムの一翼を担い、本市の国際化の推進に寄与している。なお、こうした国際研修は、英語でのガイドスタッフを備えるなど受入れ体制はしっかりと整備されている。		
・社会科児童作品展の開催、子ども食堂や技術士会定期会合など、幅広く地域の団体に		

活動の場の提供を行っている。 ・北九州産業学術推進機構と連携し、スローモビリティや超高精度カメラなどの科学技術と環境対策の融合策について検討を進めた。 ・東田まちづくり連絡協議会の一員として、社長公認堂々ごみひろいや毎月の5分間清掃など地域の美化活動の推進にも寄与している。 。	
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	評価レベル (0～5)
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。	3
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。	
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。	
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。	
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。	
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。	
⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	
[評価の理由、要因・原因分析] ① 個人情報の保護対策 ・個人情報保護規程の設定はもとより、個人情報を記載した書類のシュレッダー廃棄の徹底、個人情報の管理意識の徹底、不正メールの開放防止、不要なネットアクセス防止に関する研修や注意喚起を行うとともに、各パソコンではウイルス検知ツールを利用して漏洩防止に努めている。 ② 平等利用への配慮 ・団体利用申し込みの際の配慮事項の聞き取り、車椅子やベビーカーの常設、英語対応できる職員の配置を行うなど、円滑かつ快適な受入れ環境の整備に努めている。 ・授乳場所希望のお客様には部屋を提供するなど柔軟に対応している。 ③ 利用者限定の施設の場合、利用者選定の公平性 ・当施設は利用者限定には該当しない。 ④ 収支内容の適切さ ・定期的に行われるモニタリングや監査、年度ごとに提出する収支報告書において収支内容の適切さを示しており、適正な予算管理運営を実施している。 ⑤ 安全対策 ・施設の老朽化に伴い、修理や交換が必要な設備および部品が増えているが、日々の点検活動で不具合箇所を洗い出し市と情報共有しつつ優先順位の高いものから計画的に対策を打っている。 ・感染症予防対策として、令和7年度中はマスク着用や貸室・展示室の消毒等を実施した。 ・毎月、安全衛生委員会を開催し、施設の安全性、来館者の安全、スタッフの健康につ	

いて確認し、安全・衛生体制に万全を期している。

⑥ 危機管理体制、および、⑦ 事故発生時や非常災害時の対応

・非常時の対応として、危機管理体制を構築し、危機管理マニュアルに役割分担を明確化している。元看護師長経験者をスタッフとして配置し、非常時対応に当たるとともに、職員研修時に AED 操作や救命講習を実践的に実施した。

・防犯・災害対策としては、防犯カメラによる監視や、実体験を模擬した消防および救急搬送などの防災訓練を実施した。

・AED 装置や救急セットの常備や日常点検、館内ハザードマップの表示なども実施している。

【総合評価】

〔全体的な評価・今後の対応等〕

令和7年度は、5年間の指定管理業務の初年度に当たり、提案書に掲げる「まちの環境力を高める市民の力」プラットフォームの理念に沿って、新規プログラム開発、出張ミュージアムの拡大、国際機関等関係機関との連携強化、親子向け講座の開設など、数多くの新規施策に着手してきた。

- ・その結果、利用者数に関して目標値をクリアすることはもとより、ニーズに即したきめ細かなガイド、楽しく学べるプログラムの拡充、WEB 活用などを通じて、利用者層の広がりと同時に利用満足度を大いに実感することができた。利用満足度は団体がほぼ 100%、一般でも 95%以上が、良い、大変良いと回答している。
- ・また、関係機関との関係強化に努め、ホテル館やエコタウンセンター、山田緑地等との相互出展、JICA 等国际機関が実施する研修プログラムへの参画、地元企業の取組等紹介や研修実施など、取組の幅が大きく広がってきた。
- ・経費については、光熱費等物価上昇の中、スタッフによるきめ細かなチェック、再委託先との交渉・見直し、可能な限りのスタッフによる作業など日々の節約管理を通じて、限られた予算の中、ほぼ事業計画にそって事業運営することができた。
- ・収入については、学習施設という性格上、施設利用料の減免を幅広く適用していることから限定的となっているが、実際の貸室利用は 312 件と拡大している。なお、自主事業から指定管理業務へ 45 万円 100%を還元している。
- ・人員配置については、企画、管理、ガイド、衛生、施設管理等多岐にわたる業務について、マルチタスク制により、合理的な人員配置を成し遂げている。一方で、これらの業務は専門性の高い業務であり、元々のキャリアを活かしつつ、研修はもとより、日々の相互によるチェックを通じて、忙しい中でも資質向上がなされている。
- ・館の平等利用については、ユニバーサル体制の徹底をスタッフに周知し、事前の対応の必要性の聞き取り、受け入れ時の準備、案内時の休息場所の確保等万全の体制を敷いている。
- ・安全、危機管理体制については、対応マニュアルの整備は当然のこと、毎日の消毒、研

修での実際の機器操作・救助操作等を行うなど実践的な体制をとっている。なお、このような安全衛生について館全体で認識が共有できるよう、毎月、安全衛生委員会を開き、施設の安全状況、来館者の安全衛生面での事象がなかったか、スタッフの安全衛生面からの問題点などの確認を行い、問題があれば迅速に対応するようにしている。

以上が、令和7年度の環境ミュージアムの運営状況の概要であるが、これを総括的に評価すると、①新たなミュージアムの形づくりに向けて順調に第一歩が踏み出したこと、②プログラム等内容の充実により利用層が幅広く拡大されるとともに十分な満足度が得られていること、③経費は常に節減に努め、その中で内容は充実が図られていること、④スタッフは必要最小限な人員配置の中、資質向上が着実に図られている、⑤安全衛生について万全の体制が整えられていること、⑥特に問題となる点は見受けられないことから、一定の評価が得られるものと考えている。

今後に向けては、展示設備の見直しに合わせてデジタル技術の活用等により、より効果的効率的な案内・環境教育につながるよう企画検討を進めるとともに、大人の層への広報宣伝を強化しさらなる客層拡大を図るとともに利用者増につなげていく所存である。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2	↓	要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。